

# 平成 29 年度 第 5 回「防災スペシャリスト養成」企画検討会

## 議事概要

### 1. 検討会の概要

日 時：平成 30 年 1 月 19 日（金）10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎 8 号館 5 階共用 C 会議室

出席者：林座長、井ノ口委員、牛山委員、宇田川委員、大原委員、鍵屋委員、国崎委員  
黒田委員、重川委員、田村委員、丸谷委員  
海堀政策統括官、伊丹審議官、安邊参事官、重高企画官、小林参事官補佐

### 2. 議事概要

議題ごとに各委員による意見交換を行った。主な意見等は次のとおり。

#### (1) e ラーニング「事前学習」の修正状況（報告）

- 現在のテスト後の受講者アンケートの設問(案)は抽象的なので、どんな分野の研修なのかがこちらの狙いどおりに確認できたか、知りたいところが明確になったか、あるいは予習の目安がついたかなど、具体的に訊いた方がよいのではないか。

#### (2) 地域別総合防災研修の検討

- 地域別総合防災研修は、近隣地域の人たちが参加しているため、参加者同士が普段からつながりが持てるように人的ネットワークの構築を促進するための仕掛けが必要ではないか。例えば案内文に名刺の持参を促す、交流会を実施するなどしてはどうか。
- 交流会の中で名刺交換をする公式の場を設けてはどうか。
- 受講者間のコミュニケーションの場が不足している。インフォーマルな関係も含めてコミュニケーションの場をつくっていくとよい。例えばナイトセッションみたいな場を設けて、意見交換をしてもらうなどのプログラムを正式に設けてはどうか。
- アンケート結果を見ると災害対応の事例・体験談・教訓が求められているが、単元の中で紹介していただけるように各講師にお願いするなどの対応をしてはどうか。
- ベテランの受講者から事例・体験談・教訓の話を求めるコメントが出ているように思う。現在の研修では、1、2年間、講義に係る業務や災害対応経験をし、運用の実態を熟知している講師に依頼するやり方でもよいと思う。
- 「⑥警報避難の枠組み」、「⑦被災者支援の枠組み」、「⑨自助・共助の取組の促進」は、

地域の有識者を活用していくべきではないか。

- 地域別総合防災研修でも有明の丘研修と同様に、標準テキストに根差して行い、相互に整合性をとっていく必要がある。
- 講師は若い人ではなく、ベテランがいけばよいというものではなく、講師のために標準テキストのようなものを作るのがよいのではないか。
- 研修自体はこれまでどおり基本的な知識を習得してもらうとして、その目的を明確に打ち出して伝わるようにすれば、ベテランの方も納得できるのではないか。
- 講師が毎回異なるのであれば、講師間のコミュニケーションはさらに工夫が必要ではないか。講師間のコミュニケーションをとり、研修の内容について共通認識を持ちながらレベルアップを図ってはどうか。
- 有明の丘研修の標準テキストをベースにして地域別総合防災研修を構築していく議論を今後行うのがよいのではないか。
- 2日間を通して全体像が理解できるように、単元の時間割を体系的にする必要があるのではないか。
- 有明の丘研修を踏襲して、単元数が全 10 単元でかつ各単元を 75 分に圧縮するのは難しいのではないか。10 単元なのか、単元の統廃合や、学習目標が適切なのを見直す等、抜本的に見直す必要があるのではないか。
- 研修を効率的に展開するため(研修の省エネ化)、研修のカリキュラムやテキストを作り上げ、将来的には自治体職員が講師を務めることができることを目指していくというのはどうか。
- 地域別総合防災研修は、組織の能力を高める仕組みの図における「すそ野を広くする(防災基礎能力のある職員が多い)」部分を具体化したものではないか。
- 基礎が重要とはいえ、アンケートに書かれている要望を踏まえてカリキュラム内容を検討していくべき。事前学習で防災行政を読み込んでいただき、実際の研修では、その補足として「防災行政」の3コマを減らし、地域ならではの内容を加えられるとよい。
- 住民向けの防災訓練の方法なども教えてもよいのではないか。
- 実務の応急対策について最も説得力をもって講義できるのは被災自治体の職員なのではないか。
- 地域別総合防災研修で物足りない人は有明の丘研修に来ていただくのが良く、地域別総合防災研修で全て完結しているという誤解がないように、地域別総合防災研修の次は有明の丘研修を受講するとよいことが分かるよう、提示する方法もある。
- 募集や案内の段階で、地域別総合防災研修や有明の丘研修の位置づけ、関連、ベテランにとっての意味あい(効果)などを伝えると、誤解がなくなるのではないか。
- e ラーニングが整えば、網羅的な部分は e ラーニングで、実際の研修ではエピソードを

中心にやっていくというあり方ではないか。

- 今後の地域別総合防災研修の検討の進め方としては、①目的は何か。②地方の行政職員の交流の場にする。③2日間の研修全体を統一したものにするために、全体を見る必要がある。④有明の丘研修で整備してきている標準テキストをもっと積極的に地域別総合防災研修で採用し、各地域で教える内容はコンテンツベースと整合が取れたものとする。⑤2日間のカリキュラム構成を検討する、とする。

### (3) 能力評価(個人/組織)の仕組みの検討

- 資料3-3 他の研修機関の研修実績は参考になる。現在のデータに、国土交通大学の研修も加えると良い。
- 防災スペシャリスト養成研修と他の研修機関が連携できるとよい。
- 講義は全て 20 分単位で編成するなど、小さなユニットで講義を構成するという方法もある。有明の丘研修も将来よりバリエーションが増えていくと考えると、1つのユニットを小さくすることで、講義を柔軟に組み立てることができるようになり、幅が広がる。
- 有明の丘研修を積極的に利用している自治体や地域では、地域で組織だった新たな取り組みをしているとか、複数の人が受講したことにより何らかの変化が出ているなど、研修の成果を生かした取組みがあるかも知れない。